

# 鉄道のあるまち・くらし (全2回)

## - 学生の室蘭線利用 -



▲ 室蘭線路線図 (沼ノ端駅～岩見沢駅が黄色線区)



▲令和5年度 室蘭線（沼ノ端駅～岩見沢駅）収支状況 [単位:百万円]

※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

平成28年11月にJR北海道が「自社線の一部区間、沼ノ端駅～岩見沢駅間もその1つ（黄色線区）。この区間の令和5年度収支状況（左図）を見ると、損益が約10億9,000万円となつていて、依然として厳しい経営状況が続いている」と発表。町内の4駅が属している室蘭線の一部区間、沼ノ端駅～岩見沢駅間もその1つ（黄色線区）。この区間の令和5年度収支状況（左図）を見ると、損益が約10億9,000万円となつていて、依然として厳しい経営状況が続いている。

道内では今年に入り、赤色線区となっていた根室線の一部区間（新得駅～富良野駅間）が3月31日に廃止され、翌4月1日からバスによる代替輸送に切り替えられました。また、石勝線の滝ノ上駅が3月に廃止、室蘭線（室蘭支線）の室蘭駅が10月から無人駅になるなど、規模縮小の波が押し寄せています。

鉄道の規模縮小によって代替輸送を多く担っているのがバス。最近では、「2024年問題」やドライバー不足の影響で、バスの減便、路線廃止となる事態に。安易にバスへの代替が可能とは言えない状況にあります。

室蘭線は、乗客の多くを学生が占め、通院や買い物など生活に密着している「生活路線」。今回は、室蘭線を通学で利用する生徒やその家族、通学先となっている学校に、利用状況などをぞの目線での取材を行いました。

### 1

### 町内から町外へ通学 親の目線で見る「室蘭線」

#### 「苫小牧工業高等専門学校」に通うお子さんの父親

通常、春から秋にかけては室蘭線（早来駅～糸井駅）と自転車で、天候が悪い日や冬は室蘭線（早来駅～錦岡駅）と路線バスで通学しています。

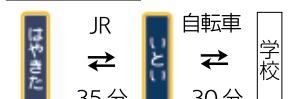
室蘭線通学のメリットは、悪天時もある程度安全に通学でき、長距離の自転車通学よりも身の安全が確保されること。デメリットとしては列車の本数が少ないため、行事（学校祭など）や部活動（主に大会）のようなイレギュラーな時間帯は、親の送迎が必要になってしまうこともあります。

定期券代がバス運賃の値上げで高額となっていますが、来年4月からはJR運賃も値上げとなる見込みで、より家計が圧迫されることになりそうです。

そんな状況ではありますが、室蘭線は苫小牧方面への通学には必要不可欠な路線。無くなると苫小牧方面へ毎日の送迎が必要となり、送迎がないと通学できなくなります。場合によっては通学できないために行きたい高校を諦める、または学校の近くへ引っ越さざるを得ないことに。移住施策に力を入れている安平町ですが、通いたい学校に通えないと、移住先の候補から外れることも考えられると思います。

#### 【想定される通学経路の変化】

現在 (春～秋)



廃止となった場合



※所要時間は目安。  
※乗り継ぎの待ち時間を除く。